

第1学年1組 生活科学習指導案

場 所 1年1組教室・校庭
授業者 梅津 奈保美

1 単元名 みんなであそぼう

2 単元の目標

校庭遊びを通して、お気に入りの場所や遊びがあることに気付き、その気付きを表現しながら自信をもって学校生活を楽しむことができるようにする。

3 指導にあたって

(1) 教材について

本単元は、生活科の内容(1)「学校と生活」(6)「自然や物を使った遊び」を中心に構成している。子どもは学校生活の中で、先生や友達と一緒に遊んだり学んだりして共に生活する楽しさを味わい、学校のことが分かり、集団の中の自分の行動の仕方を学んでいく。本単元は、子どもが、身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びをつくりだすことができる教材である。

(2) 児童について

本学級の子どもたちは、1年生になり、新しい教室、新しい友達等、新しい環境に期待をもって学校生活を始めた。また、自分たちの学校についてもっと知りたいという思いをもち、学校探検を楽しんできた。はじめは「お姉ちゃんの教室があったよ。」「トロフィーがいっぱいあってびっくりしたよ。」など、校内に興味をもっていた子どもたちだったが、あるときA男が「外の廊下から校庭が見えたよ。次は校庭にいつてみたいな。」と話すと、子どもたちは、「行きたい!」「校庭で遊びたい!」「どんなことをして遊べるのかな。」と外遊びへの思いを高めていった。そこで次は校庭を探検し、ジャングルジムやブランコなどの遊具で遊ぶ、葉っぱや木の実を集める、校庭を友達と散歩するなど活動を行った。活動後の記録カードでは、どの子どもも自分の遊びを絵に表す姿や、友達のカードを見て「それ、どこでやったの?」「いっしょにやろうね。」などと話し合う姿があった。このように、学校探検の中にも子どもたちの活動には「遊び」があり、「遊び」を通して学校生活への思いを高めていることが分かる。そこで本単元では、自分らしい遊びを十分にすることで、学校生活を楽しむ機会につなげていきたい。

(3) 指導について

指導にあたっては、外遊びの活動を繰り返し行う。外遊びの活動を繰り返すことで、「○○遊びができるようになったよ。」「△△をつくったらおもしろかった。次は友達との一緒にやりたいな。」「もっとパワーアップしたいな。」など、自分らしい思いをもち、遊びに没頭することができるようにする。そうすることで、様々な遊びを見いだしたり試行錯誤したりしながら、自分のよさや友達のよさにも気付くことができるようにする。

4 単元の評価規準(総時数25時間)

(1) 単元の評価計画

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	自分らしい遊びを行う中で、自然の物を使ったり友達とかかわったりすることの面白さや自然の不思議さ、自分や友達のよさなどに気付く。	遊びの中での「ひと・もの・こと」を自分との関わりでとらえ、遊びを工夫し、次の活動への目的をもって表現したり考えたりしている。	遊びの中での「ひと・もの・こと」に自ら働きかける中で意欲をもち、学校生活を楽しむことができる。

小単元の評価規準	①学校生活で出会う「ひと・もの・こと」に気付く。 ②外遊びにおいて、自分や友達のよさに気付く。またその気付きを基に、自分らしい遊びを工夫したり、相手と関わったりする楽しさが分かる。 ③校外での外遊びでも、自分や友達のよさに気付く。	①学校生活をおくる中で、興味・関心のある「ひと・もの・こと」について考えている。 ②興味・関心のある外遊びについて考えている。また活動を基に、相手と関わる楽しさについても考えている。 ③校外での外遊びでも、興味・関心のある「ひと・もの・こと」について考えている。	①学校生活で出会う「ひと・もの・こと」に興味・関心をもつ。 ②外遊びにおいて、試行錯誤しながら、自分らしい遊びを楽しむことができる。
----------	---	---	---

(2) 指導と評価の計画

小単元名 (時間)	学習活動(時間)	知	思	態
がっこうだいすき たんけんたい (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校について知りたいことを出し合う。(2) ・校内や校庭等、自分の知りたいことを基に、学校探検を行う。(3) 	①	①	①
あそびけんきゆう たい (20)	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を基に、外探検をさらに進める。(2) ・校庭で自分の好きな遊びを行う。(2) ・校庭で自分らしい遊びを繰り返し行う。(本時11/13) ・近隣の公園で友達と楽しく遊ぶ。(3) 	① ② ③ ②	② ③ ② ③	① ② ③

5 本時の計画

(1) 本時のねらい

これまでの活動写真や記録カードで活動を振り返ることにより、自分のやりたい遊びのイメージを広げ、実際に楽しみながら、自分らしく思い切り遊ぶことができる。

(2) 学びを深める要素「教師の見取りと子ども同士の関わりを支える働きかけ」

子どもの思いを具現化する教師の働きかけ

前時までの子どもたちの遊びの様子や思いを記録写真や振り返りカードで把握し、子どもたちの思いに寄り添えるようにする。遊びを本気で楽しむ子どもを価値付け、子ども一人一人が自信をもって活動できるようにする。また、教師も子どもと遊び、その中で子どもの変容を見取り価値付けていく。そうすることで、教師も環境の一部として子どもとかわることができるようにする。教師も環境の一部とは、「教師も子どもたちの遊びの中の一員として遊びながら、一人一人のよさに合いの手の言葉かけをしながら価値付けていくこと」と考える。その際、教師(大人)としての働きかけや言葉かけだけでなく、子どもの目線での働きかけや言葉かけも行い、子ども一人一人の遊びを教師も体験することで、子どもの思いや願いに寄り添うことができるようにする。

○教師(大人)としての言葉かけ(子どもを価値付ける言葉かけ)

例:「長く掘れたね!今日の川遊びはどこまで続くのかな。」

「今日は〇〇遊びまで挑戦しているの。いいね!」

○子どもの目線での言葉かけ(子どもによりそう言葉かけ)

例:「トンネル、もう少しでつながりそうなの。わたしもこっちからほってもいい。」

「かたい泥団子だね。どうやって作ったの。教えて。」

子どもの実態に合わせて言葉かけを変えることで、遊びが広がり、その子どもの自信になったり、友達との関わりに対する後押しになったりするようにしていく。そうすることで、子ども一人一人がやりたい遊びを思い切りできるようにする。

(3) 指導過程

学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ◆本時の重点 ※評価
<p>1 本時の問いをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○○あそびを もっとたのしくできるかな</p> </div> <p>2 問いをもとに、校庭で遊ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈遊びの例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山、川づくり ・ 泥工場、泥だんごづくり ・ トンネルづくり ・ 温泉づくり </div> <p>(子どもの思いの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日こそ一番長い川を作りたいな。 (前時との比較) ・ 今日泥団子を作りたいな。泥工場を大きくして、いっぱいつくるぞ。 (達成感) ・ Bくんのトンネルがすごかったな。もっと入口を大きくして、水も流してみよう。 (発展・挑戦) <p style="text-align: right;">など</p> <p>3 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<p>5</p> <p>3 5</p> <p>5</p>	<p>○ これまでの活動を記録写真や活動記録を基に振り返る子どもの話から、本時の問いを見出すことができるようにする。</p> <p>◆ 教師も環境の一部という考えを基にやりたい遊びを進める子どもは肯定的に見守る。また、やりたい遊びを進める子どもに対しては、自分たちで遊び続ける姿を見守ることができるようにする。</p> <p>◆ どんな遊びをしようか考えながら遊ぶ子どもには、教師も一緒に遊びながらその時の表情を見たりつぶやきを聞いたりして、その思いを価値づけることで、自分らしい遊びをするよさに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 教師も一緒に遊ぶことにより、子どもの思いに共感したり感心したりしながら子ども自身の遊びに対する思いをより高めることができるようにする。</p> <p>※ 自分らしくわくわくした思いをもちながら、思い切り遊ぶことができるか。 (行動・発言)</p> <p>○ 活動場所が近い友達と活動の思いを話し合うことで、振り返りにつなぎ、自分や友達の遊びのよさに気付くことができるようにする。</p>